希望を求めて

AMDA30年 ④

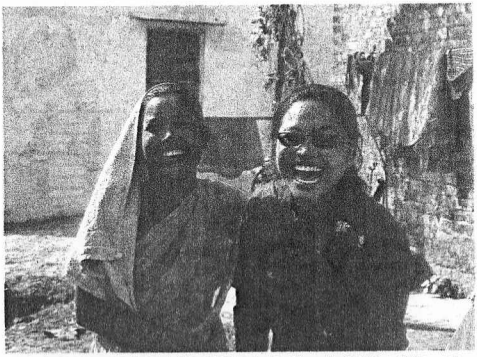
長期の支援

AMDA社会開発機構

教育受け生活向上に

アジアやアフリカなど6カ国で活動するNGO「AMDA社会開発機構」（北区蓍山町）は、衛生環境の向上や、貧困の解決といった長期的な支援活動に取り組んでいる。国際医療NGO「AMDA」（北区伊福町3）とともに、AMDAグループの一員として志を同じくする。AMDA社会開発機構を通して、支援を受ける人たちの声を聞いた。

ネパール中部・ルパンデヒ郡カマリヤ村。首都カトマンズから200キロ以上離れ、最も低いカーストの人たちが住む地域だ。AMDA社会開発機構の支援で衛生環境の向上に取り組んだ村の女性、サンギタ・チョウドリさん(33)は「村のすべてが変わった」と話す。



公衆衛生に関する支援を受けたネパールのサンギタ・チョウドリさん（左）ら＝AMDA社会開発機構提供

プロジェクトでは健康に関する知識を広めるため、村の女性たちを数人ずつのグループに分け、乳幼児の健康▽安全な妊娠▽水と衛生――といったテーマを割り振る。グループごとに研修を受け、学んだ内容を他の村人に伝えてもらう。チョウドリさんは公衆衛生を担当。手洗いの重要性や、トイレの設置で病気が防げることなどを村人に伝えた。各家庭をまわってトイレの設置を呼びかけ、集落が全戸設置を達成。村で一番早く達成した快挙とあって、お祝いの行事も開かれた。

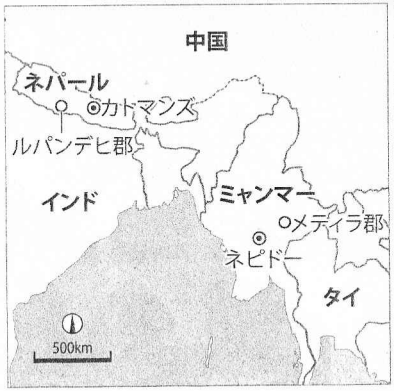
活動は、別の効果ももたらした。「これまで私たち女性は何の決定権も持たなかった。でも今は違う」と、チョウドリさんは力説する。村の女性たちと交流し、村人に知識を広める立場になったことで、自分に自信を持てた。「今は、集落のために活動することが、私の幸せなのです」

ミャンマー中部の乾燥地帯、メティラ郡チャウピュゴン村では、小規模無担保融資（マイクロクレジット）を実施している。貧困世帯の女性に融資して農業や畜産業などに充ててもらい、生活を上向かせる取り組みだ。

融資を受けたテイ・ジーさん(42)は「生活が豊かになった」と感謝する。

6人の子供を育てるジーさんは、まきを売って生計を立てていたが、生活は苦しかった。07年、3万チャット(約3千円)の融資でヤギ2匹を購入。ヤギは子を産み、家計に困るとヤギを売って米を買うことができた。融資は年1回で、段階的に増額。ヤギの頭数を増やすと、3年目で土地を買えるほどになった。12年、夫と母が亡くなる不運があったが、「無事葬儀をあげられた」。ジーさんは「息子たちに教育を受けさせたい。支援してくれた人たちに感謝したい」と話している。

AMDA社会開発機構は「今日の生活と明日の希望」をコンセプトに、15人の日本人スタッフを各地に派遣。現地の人と手を携えて活動している。【五十嵐朋子】



AMDA社会開発機構

活動地はインドネシア、ホンジュラス、ザンビアなど6カ国。外務省の資金協力を得て、政府開発援助（ODA）の一環として活動。シエラレオネでは国際協力機構（JICA）の事業として、母親や幼児への保健医療サービスなどを実施している。2013年、認定NPO法人になった。